

加

事

見

本

目 次

1. 一般事項
 - 1) 総 則
 - a. 適用範囲
 - b. 適用図書
 - c. 参考図書
 - d. 疑義、変更
 - e. 見本品・その他
 - f. 専門業者への指
 - 2) 施工管理体制
 - 3) 工事概要

2. 要求品質・設計仕様
 - 1) 鉄筋材料（ 印は
 - 2) 鉄筋のかぶり厚さ

3. 施 工
 - 1) 使用材料
 - 2) 材料保管場所及び
 - 3) 鉄筋工事施工フロ
 - 4) 施工要領
 - 5) 組立て
 - 6) 検査
 - 5) 記録写真

4. 安全衛生管理
 - 1) 墜落事故の防止
 - 2) 電動工具での事故
 - 3) 安全活動及び教育
 - 4) 工程別安全チェッ

5. 添付資料一覧
 - 1) 鉄筋ミルシート（
 - 2) 梁貫通補強筋（既
 - 3) 鉄筋加工場概要書
 - 4) スペーサー関係資
 - 5) 資格者証等写し

見

本

1. 一般事項

1) 総 則

a. 適用範囲

本施工計画書は、「

」に適用する。

b. 適用図書

本工事は下記の設計図

- 1) 本工事の建築設計図書
- 2) 現場説明書、質疑回答
- 3) 公共建築工事標準仕様

,

大臣官房官庁営繕部監修

c. 参考図書

- 1) 建築工事監理指針 (工)
- 2) 建築工事施工チェック

庁営繕部監修

協会

d. 疑義、変更

上記設計図書類に明
と十分協議のうえ施
この計画書の内容に
生じた場合は、工事
変更・修正内容につ

場合は、工事監理者(主任監督員)

外の事項で重要と思われる問題が

係者全員に周知させる。

e. 見本品・その他

本工事に使用する各材
員の承諾を受ける。

ブ、その他の資料等を提出し監督職

f. 専門業者への指示

本施工計画書の内容は

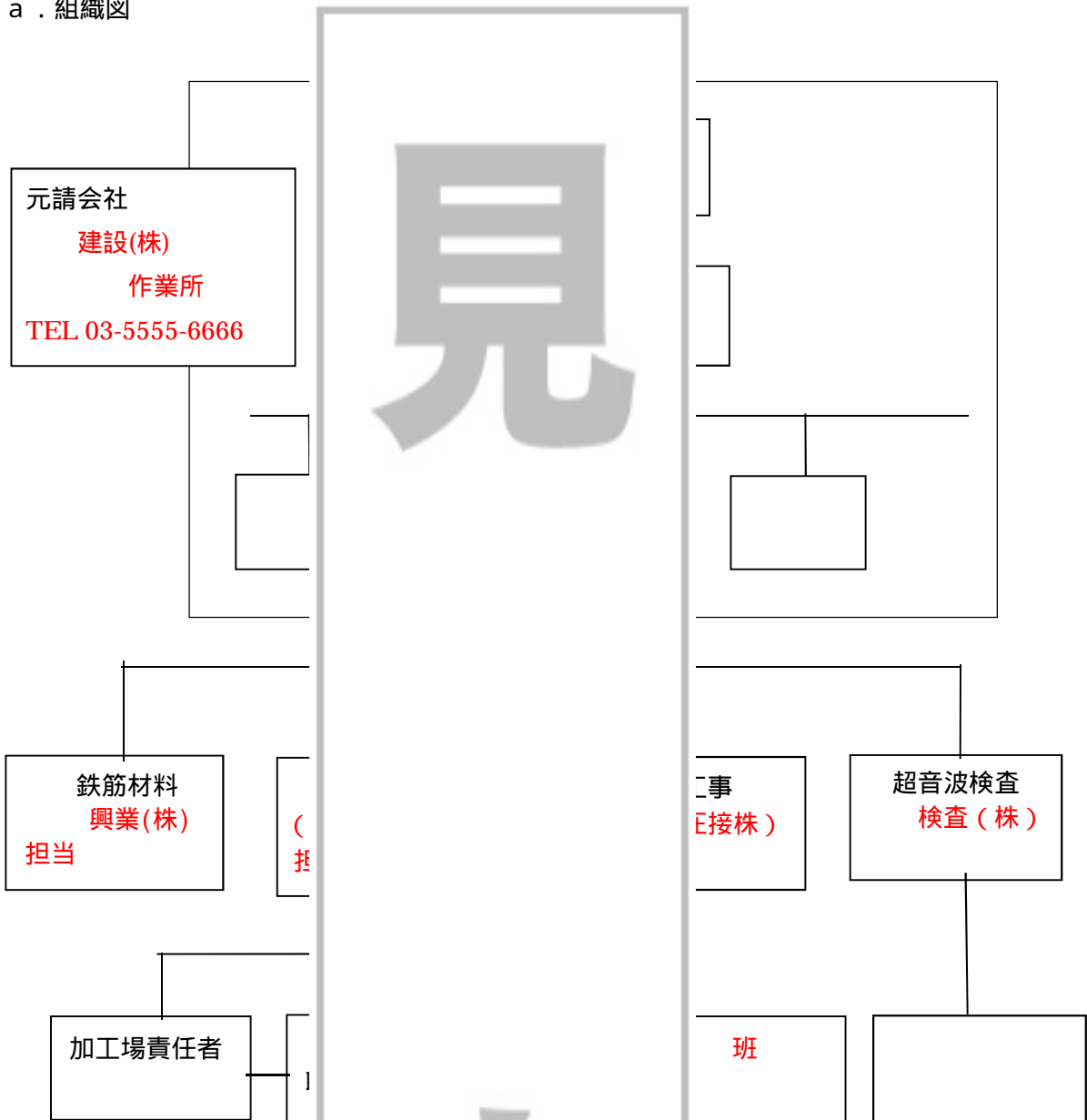
させ、施工品質の確保に努める。

見

本

2) 施工管理体制

a. 組織図



b. 鉄筋工事施工

請負範囲	鉄筋
会社名	株式
所在地	東京
電話	03 -
代表者	
担当者	

c . 作業資格

鉄筋組立て 班	職長
	玉掛
	玉掛
	鉄筋

	第 0123456 号
	第 0123456 号
	第 0123456 号
	第 0123456 号
	第 0123456 号

d . 鉄筋加工場

名称	株式
所在地	東京
電話	03 -
責任者	
屋内加工場	
屋外加工場	
加工・切断機	自動 自動 手動
加工能力	20
所要時間	往路

	5.0t × 1 台
	5.0t × 1 台

e . 鉄筋工事品質管理組織

職 種
監理技術者
鉄筋工事担当
鉄筋加工
鉄筋現場組立
圧接
特殊継手
第三者検査機関

担当者名

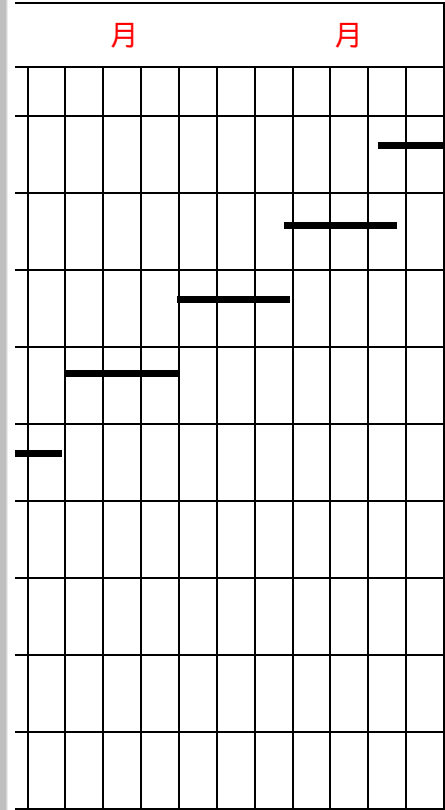
3) 工事概要

a. 工程

鉄筋工事工期 平成

0日

		月
PH	6t	
5階	60t	
4階	70t	
3階	72t	
2階	72t	
1階	74t	
土間	10t	
基礎	80t	
材料発注	—	



b. 施工数量

種 類		備 考	
SD295A			
SD295A			
SD345			
SD345			
SD345			
SD345			
高強度剪断		75N/mm2	10.7
圧接	D		
圧接	D		
圧接	D25+D25	1,590箇所	

2. 要求品質・設計仕様

1) 鉄筋材料 (印は該当を)

JIS G 3112 (鉄筋コンクリート)
 監理者に提出する。

目材のミルシート (規格証明書) を

使用箇所		S
杭	主筋	
	帯筋	
耐圧版		
基礎梁	主筋	
	あばら筋	D
柱	主筋	
	帯筋	
梁	主筋	
	あばら筋	D
床スラブ	主筋	D
	開口補強	
壁	主筋	
	開口補強	
土間		

継手		
重ね	ガス圧接	その他
○		
○		
○	○	
○	○	
○		
D16	D19・25	
○		
○		
○		

2) 鉄筋のかぶり厚さ

土に接しない部分
土に接する部分

かぶり厚さ (mm)	許容限界 (mm)
30	± 5
40	± 5
40	± 10
50	± 10
50	± 10
100	- 0
50	± 10
70	± 10

3. 施工

1) 使用材料

a. 異径鉄筋

規格	種
JIS G3112	SD-2
	SD-3

所	数量
	00.0t
	00.0t
	00.0t
	00.0t
	00.0t

b. 溶接金網

規格	
JIS G3551	6.0

製造所	数量
	000.0 m ²

c. スペース

使用部位	
基礎・梁	ニ
壁・柱・梁	ニ
スラブ	釘

状	備考
	産業(株)
	工業(株)
	産業(株)
	(株) 製作所

d. 梁貫通孔補強筋

リンブレン D 型

	産業(株)
--	-------

2) 材料保管場所及び保管方

a. 保管場所

別紙添付

基本的に搬入した材料物に関しては別紙に記

め保管はしないが、保管が必要な

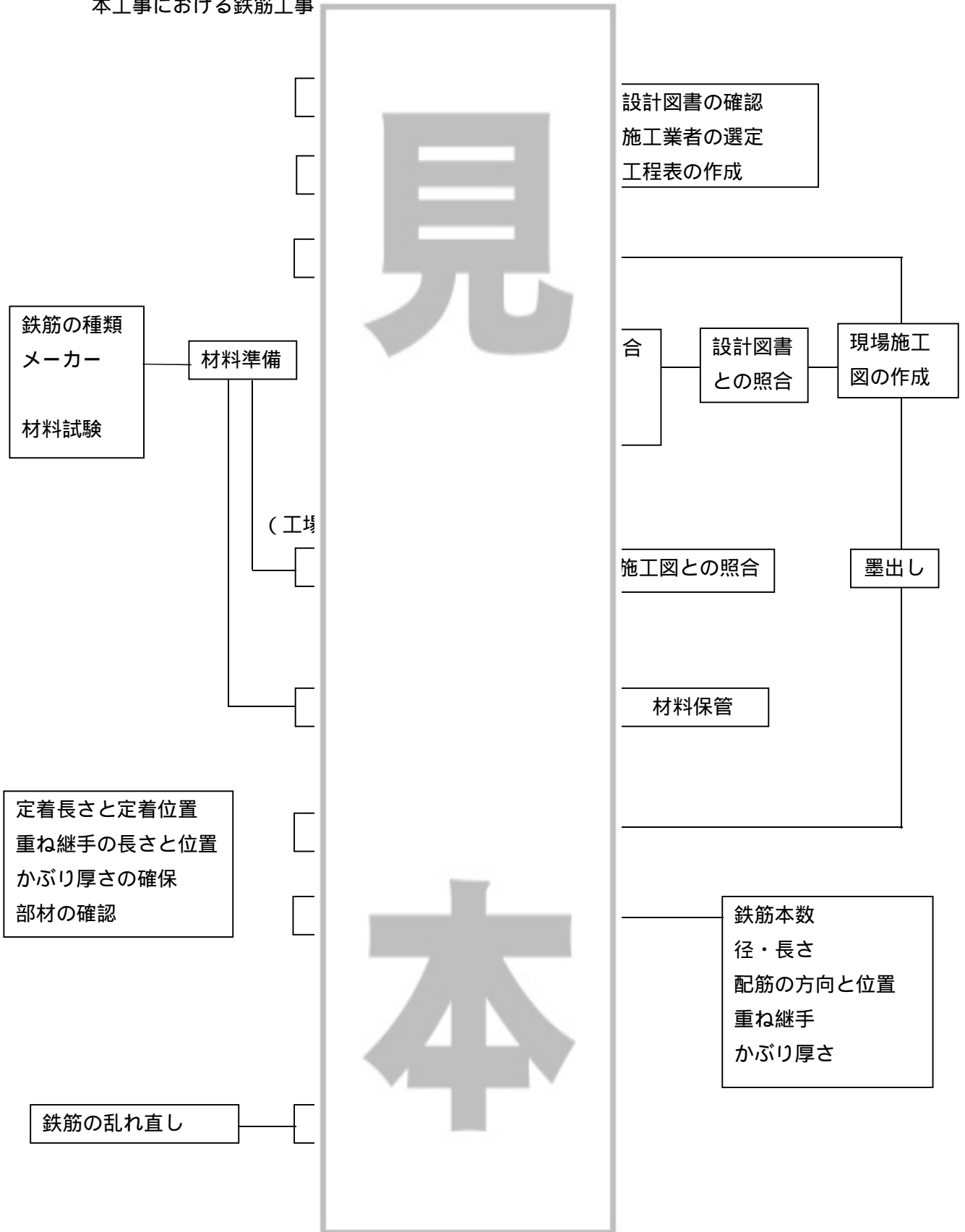
b. 保管方法

台木の上に識別可能なる。

て置き、他の材料との混同を避け

3) 鉄筋工事施工フロー

本工事における鉄筋工事



4) 施工要領

a. 準備作業

関連する工事業者と
安全通路・昇降設備

法を決定する。

b. 鉄筋加工

鉄筋の加工は、工場に
鉄筋の切断は、ジャ
継ぎ手及びかぶり厚
定着長さ及びフ
定着不足の内容十分

工帳を作成し、加工を行う。

断はしない。

設計仕様の表による。

は標準仕様書において確認し

c. 組立順序

組立順序は下記の通り
なお、施工時において
と協議の上施工する。

進めるものとする。

異なる場合は監督職員、関連職種

(1) 基礎

ベース配筋 柱

筋 差し筋等

(2) 上部躯体

柱配筋 壁配筋

差し筋等

d. 関連業者との取合

他業者と関連する場合
また、別途設備業者等
施工する。

行い、躯体図に反映させる。

は取合部分の工程を打ち合わせし、

5) 組立て

a. 結束線

鉄筋の結束は、21#
結束線は、雨に濡れ
使用する。
結束線の端部は、か

使用する。

に合わせ適した長さの物を選定し、

折り曲げる。

b. スペース

スペースは、転倒及び作業荷重に耐えられる材料とし、かぶり厚さに応じて材質・形状・サイズを選定し、転倒・移動・座屈及び壊れの生じない物とする。

e . 鉄筋の保護

(1) 床板配筋の乱れを防止するため、配筋後足場板を配置し、直接配筋の上を歩かないようにする。

(2) コンクリート打設時
う、鉄筋工を配置す
要に応じて配管台を

発生した場合は直ちに修正できるよ
直接スラブ配筋に接しないよう、必

6) 検査

a . 自主検査

別紙自主検査表に基づ

b . 配筋検査

鉄筋の加工・組立完了
を行い、不備があれば

設計図書に基き各部材毎に自主検査
を受ける。

5) 記録写真

下記について撮影し記録

材料搬入状況
ロールマーク確認状
鉄筋加工の確認
各部材の配筋確認
各種補強筋
スペーサーの取付け
被り厚

見

本

4. 安全衛生管理策

労働安全衛生法、同規則及び労働安全衛生法施行令等を守り、災害防止に努める。

1) 墜落事故の防止

- ・ 足場の確認及び適正使用
- ・ 保護具の徹底使用（ヘルメット、安全帯、安全網等）

2) 電動工具での事故防止

- ・ 始業前点検
- ・ 安全装置の確認
- ・ 感電、漏電事故の防止

3) 安全活動及び教育

- ・ 作業開始前に職長を中心とした安全活動（作業手順、方法、合図等）
- ・ 体操、朝礼、KYミーティング
- ・ 高齢者、年少者の作業
- ・ 経験の浅い作業員への指導
- ・ 他職種との密な連絡

4) 工程別安全チェックポイント

a. 加工時

- ・ 加工機ベルトカバーの点検
- ・ 保護具（手袋等）の着用
- ・ 機械の取り扱いや点検

b. 運搬時

- ・ 日常点検の実施
- ・ 交通規則を厳守
- ・ 過積載の禁止
- ・ 一般市民、一般車の注意

c. 荷降ろし、荷上時

- ・ 玉掛は有資格者による
- ・ 周囲の確認、合図
- ・ 一本吊りの禁止
- ・ 吊り具の点検

見

本

c . 組立時

- ・ 高所作業は安全帯を使用する
- ・ 脚立の適正使用
- ・ 飛来、落下の対策
- ・ 作業通路の確保及
- ・ 転等防止（柱・壁



5 . 添付資料一覧

- 1) 鉄筋ミルシート (製品検
- 2) 梁貫通補強筋 (既製品)
- 3) 鉄筋加工場概要書
- 4) スペースー関係資料
- 5) 資格者証等写し

見

本